

## 小学校中学年の部

特選 自由図書部門

おばあちゃん、ありがとう

揖斐川町立清水小学校三年

若原 凜空

からあげ、ポテト、ピザ。おばあちゃんが作ってくれたぼくのすきな食べ物です。おばあちゃんはお料理が上手で、ぼくたちのためにいつもおいしいごはんを作ってくれました。

さとしのおばあちゃんもお料理が上手で、天ぷらを作るのが大好きです。でも、たくさん作りすぎるので、さとしのお母さんにおこられます。ぼくのおばあちゃんも、ぼくたちが食べきれないくらいたくさんのおかずを作ってくれました。「いっぱい食べないと、大きくなれんよ。おかわりあるでね。」とよく言われました。だから、さとしのおばあちゃんも、おじいちゃんにたくさん食べてほしくていっぱい天ぷらを作ったんだと思います。

さとしのお母さんも天ぷらを作るおばあちゃんにこまっていたけれど、ぼくはやさしいなと思いました。おばあちゃんが作る料理がおじいちゃんのスきな天ぷらだからです。おじいちゃんのことを考えて作っているんだなと思いました。ぼくのおばあちゃんも食べたいものを聞いてくれて、何でも作ってくれました。ミシンもとく意だったので、マスクも作ってくれました。ぼくのすきなポケモンのマスク。お気に入りです。また、オセロやトランプ、キャッチボールなど、いっしょに遊んでくれました。こんなふうにも、いつもぼくたちのためにいろいろなことをしてくるおばあちゃんでした。

「なんでおばあちゃんは、りくにいろいろしてくれたいと思う。」とお母さんに聞かれました。考えてみたけれど、今までやってもらったのがふつうで、おばあちゃんの気持ちを考えてことがなかったのだから分りません。お母さんは「りくがかわいくて大事だからいろいろやってあげたかっただと思ふよ。りくがよる

こんでくれるのがすぐくうれしかったんじゃないかな。」と教えてくれました。ぼくも同じ気持ちになったことを思い出しました。いつもはお父さんがやってくれているふとんしきだけ、ぼくがやればお父さんがやらなくてすむし、みんながすぐにねられると思つてこっそりやりました。ふとんをしいてあることにびっくりしたお父さんたちが「りくがしいてくれたの。ありがとう。」とめちやくちやよるこんでくれました。ぼくは、やってよかったなとうれしくなりました。おばあちゃんもこんな気持ちだったんだと思います。

さとしのおばあちゃんもぼくのおばあちゃんも、家族を大事に思つていて、家族がよろこんでくれるのがうれしくてやっていたんだと分かりました。いつも一番にぼくたちのことを考えてくれた、大好きなおばあちゃん。ありがとうの気持ちが今までよりもっと大きくなりました。

おばあちゃんへ。ぼくがよろこぶようにいろいろなことをしてくれてありがとう。たくさん食べて、お手つだいもつづけられるようにがんばるよ。おばあちゃん、見ていてね。

また、おばあちゃんのスきなわがしをおそなえするから楽しみにしていてね。

山口 節子 作

『てんぷらばあちゃん』岩崎書店

### 【講評】

主人公の「てんぷらを作るおばあちゃん」と自分のおばあちゃんを重ね合わせて感想文を書いています。

おじいちゃんが好きなてんぷらを作る「てんぷらばあちゃん」の気持ちを自分に愛情を注いでくれたおばあちゃんの言動から考え、家族を大切にすることが大切だと家族に感謝する気持ちを具体的な自分の姿や家族とのやり取りを通して、表現しています。

読書を通して、自分の祖母に対する気持ちや家族について改めて考えているところがすばらしいです。

